

9月1日は「防災の日」 災害への備えを見直しましょう

大正12年9月1日に関東大震災が発生し、多くの尊い命を失いました。その大惨事を忘れないため、また9月は台風の被害の多い時期であることから、昭和35年に9月1日を「防災の日」と定められました。いつ災害が発生しても自分や家族の命を守るために、日ごろから防災意識を高め、災害に備えておきましょう。

日ごろの備え

非常持出し品の準備

リュックなどに非常持出し品をまとめて、靴などと一緒に寝室・玄関・物置など、すぐに持ち出しやすい場所に備えておきましょう。

飲料水、非常食、身分証明書、現金、懐中電灯、ラジオ、乾電池、救急セット、ティッシュ、雨具、手袋、タオル、おむつなど

Check!
定期的に
点検



※写真は持ち出し品の一例です。

情報収集をして危険度を把握

いざというとき慌てないために、携帯電話やインターネットなどを活用し、防災に関する情報収集の方法やその手順をあらかじめ確認しておきましょう。特に、梅雨期や台風シーズンによる大雨などには、天気予報や気象情報を確認しましょう。

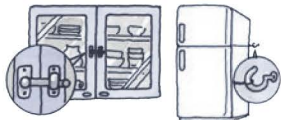
情報収集の方法

・エリアメール(緊急速報メール)・しらしがメール・全国瞬時警報システム(Jアラート)自動起動装置・新聞・テレビ・ラジオ・インターネット・町広報車や消防車両・有線放送や各自治会から



家の安全点検

災害に備えて家の内外を点検しましょう。地震への備えとして、家具の固定やガラスが割れないように飛散防止フィルムを貼るなどの対策をしましょう。



避難場所・避難経路の確認

家族で避難場所や避難経路を確認し、避難時の自分の住む地域の危険な箇所を把握しておきましょう。



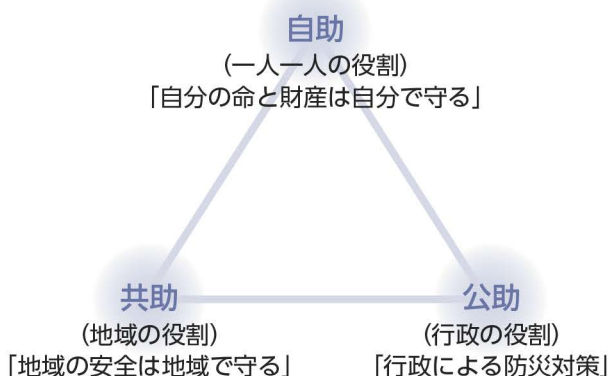
家族で話し合い

災害が発生したときの役割分担を決めておいたり、また外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになったりした場合の安否確認の方法や集合場所を決めておきましょう。



防災対策の三本柱

防災対策の基本は、自助・共助・公助の三本柱であり、これらが上手く連携することで、災害の被害が軽減できます。



自主防災組織の防災活動に参加しよう

地域やまちを守るため、自主防災組織に加入して地域防災に協力し、いざというときに適切な行動ができるよう、日ごろから地域の防災訓練や研修会に積極的に参加しましょう。また、防災訓練を地域行事の中に取り入れるなどの工夫をして、地域での防災活動が継続できるようにしていくことも大切です。



▲美松台地区の防災運動会
(バケツリレー)



▼緊急時の炊き出し用に公園に設置された「かまどベンチ」